

## 令和元年度第2回亀岡市総合計画審議会 議事要旨録

日 時：令和2年1月29日（金） 14時00分～14時50分

場 所：亀岡市役所 別館3階会議室

出席者：前田正史会長、大石慶明副会長、青山公三委員、浅田信仁委員、上田善郎委員、川勝啓史委員、木村好孝委員、坂本信雄委員、渋谷幸雄委員、鈴木康久委員、手塚恵子委員、内藤登世一委員、原田禎夫委員、三宅基子委員、山口みどり委員

欠席者：今里佳奈子委員、尾崎まこと委員、岸耕二委員、楠善夫委員、多胡麻衣委員

議 題：1 開会

2 議事

(1) 令和元年度 行政評価の取組実績について

(2) シンボルプロジェクトの進捗状況について

(3) 第5次亀岡市総合計画の策定状況について

(4) 令和2年度 総合計画審議会の取組予定について

3 閉会

### 1. 開会

- ・定数を満たし、本会議は成立。

### 事務局

- ・審議会条例第5条第1項に基づき、議事進行を会長にお願いします。

### 会長

- ・遅れてくる委員もいるので議題（2）から始める。
- ・シンボルプロジェクトについて、事務局説明をお願いします。

### 2 議事

(2) シンボルプロジェクトの進捗状況について

### 事務局

- ・資料に基づき、事務局説明。

### 会長

- ・説明に対する質問、意見はないか。

- ・京都スタジアムでのサングの試合数はどれくらいを想定しているのか。

#### A 委員

- ・20 試合程度である。

#### 会長

- ・議事（1）に戻る。令和元年度行政評価の取組実績について進行管理部会の部会長から説明をお願いする。

#### （1）令和元年度 行政評価の取組実績について

#### B 委員

- ・令和元年7月9日に開催された第1回目の進行管理部会で、平成30年度に進行管理部会で決めた今年度の評価対象施策と評価方法について確認した。
- ・令和元年8月26日に開催した第2回目の進行管理部会において、評価対象施策である第5章第6節「公園・緑地」と第6章第6節「就労支援」について所管課から事業内容の説明を受け、ヒアリングを行った。
- ・事務局においては、進行管理部会でのヒアリング結果を踏まえた上で、10月11日に市長・副市長によるヒアリングを実施し、先月の12月24日の第3回目の進行管理部会にて、結果の報告を受けた。
- ・資料No.2の通り、施策の重要性、手法の妥当性について確認した。重要度が高いが、手法の妥当性が低いという評価の事業もあった。部会委員からの意見は「部会委員意見」に記載している。
- ・例えば、公園は、公園の維持・管理が大きな課題となっており、指定管理のあり方についても意見をもらった。また、亀岡市においては、「花と緑のまちづくり」に取り組んでいるが、グリーンインフラをどう住宅地に展開していくか、意見が出た。
- ・就労支援は、担当課が100を超える企業を回っているなどの取り組みをしているが、必要とされている人に、この情報をどのように伝えていくのが課題である。また、中小企業基本法に定めた企業以外にも就労の場があるため、どういった展開が必要かという議論をした。
- ・資料には市民意見も添えており、一番右は理事者評価として、市長・副市長からいただいた評価となっている。事務局から補足説明をお願いする。

#### 事務局

- ・資料に基づき、事務局説明。

#### 会長

- ・部会長と事務局の説明について、質問、意見はないか。
- ・引き続き、よろしく願います。
- ・議事（3）について、策定部会の部会長から説明をお願いします。

### （3）第5次亀岡市総合計画の策定状況について

#### C 委員

- ・次期総合計画は、令和3年からの10年計画を検討している。
- ・資料No.4-5を提示いただき、計画の構成について議論するとともに、アンケート結果について説明を受けた。
- ・アンケートは、一般市民、WEB、高校生と丁寧に調査されている。例えば、高校生の亀岡に住みたい、戻ってきたい割合は13%程度となっている。このような点を、何とかしていく必要がある。
- ・子育て世代の母親が40～60代の人よりも子育て環境が良くないと思っているアンケート結果や、外国の人との関係性が重要になってくるというお話も踏まえ、今後の計画について検討していく必要があると議論した。
- ・今後、2月、3月と議論を進めていく。この後開催する策定部会では、人口について議論する。第1回策定部会にて委員から意見があったが、定住人口だけでなく、関係人口、昼間人口、にぎわい人口という考え方もある。前回計画においては、定住人口の目標が10万人となっていたが、今後の計画はどういった方向で何を求めながら進めていけばいいか、今後議論を進めたい。詳細は事務局から願います。

#### 事務局

- ・資料に基づき、事務局から説明。

#### 会長

- ・説明に対するご意見、ご質問は。

#### B 委員

- ・人口に関して、情報提供をしたい。兵庫県豊岡市では、どんなところが人口が減っているか分析を行った。地方の多くは、若者が一旦都会へ出ると帰って来ないが、それを更に詳細で見ると、特に若い女性が帰ってきていないことがわかり、まちづくりにおいて、ジェンダーギャップの解消を新たな施策として、重点的に展開している。
- ・障がい者、若者、外国の方、高齢者といったいろんな方がまちづくりや経済活動に参加する中で、特に女性が参加できていない。豊岡市では「若者回復率（20歳代転入超過数の10歳代転出超過数に対する割合）」という言葉を示しているが、女性の若者回復率が男性の半分程度しかないと把握をし、施策を展開している。

- ・地域、行政、事業所において、女性に補助的な仕事しか与えてこなかった等、厳しく要因を列挙している。その中で、働き甲斐があり、働きやすい職場を企業と一緒に施策検討している。
- ・資料No.8-1 P4 において、現在亀岡市以外に住んでいる人が亀岡市に住みたいか、という結果を見ても、女性の方が「そう思わない」割合が高い。高校生向けのアンケート結果を見るとその他でも、男女で顕著な違いが見られる。P8 でも女性の方が都会に住んでみたい割合が高く、亀岡が若い女性に選ばれないまちになっている。アンケート結果、人口移動のデータ等、今までにない視点で検討していく必要がある。

### C 委員

- ・本日の策定部会でそういう議論をしないといけない。男女ともに対策が必要だと思うが、どこに重点を置くか、強弱が必要となる。
- ・資料No.5P7 の住み続けたい理由で高いのが、住環境、自然環境が良いこととなっている。若い人が自然環境・住環境を好んでいるのであれば強いところを推し示すべき。また、住み続けたい理由で「子どもの教育が充実しているから」を選んだのは8件しかなく、低い数字を示している。
- ・高校生が戻ってくるための環境としては都市的空間が必要という考え方だが、選ばれるまちとして子育てがしやすい環境も必要となる。
- ・強いところと弱いところを見ながら、どういう方向で総合計画を策定するか検討したい。住みたい、選ばれるまち、若い人が帰ってきたいまち、今住んでいる人、亀岡を知っている人が亀岡に住みたいと思えるまちにしないといけない。

### A 委員

- ・出産年齢層である 20-39 歳の女性の割合が減っていくことが人口減少のポイントであり、亀岡市でも出産年齢層の女性の年齢割合が低く、減っていることが統計的に検証されている。府内の自治体と比べても下から 4~5 番目である。
- ・どうしてこのような結果であるのかは、検証が必要である。女性の雇用形態、待遇等も含めて影響しているのではないか。子育て環境もあるが、元気のある女性を地域にとどめるためのあり方を考えないと出生率に影響する。

### 会長

- ・高校生は都市を誤解しているかもしれない。女性の職場については、亀岡市が亀岡市らしい職場を提供できているかというところ。

### B 委員

- ・アンケートにおいて、環境先進都市の取組を進めるべきと結果がでていますが、市民の実

感として利益が還元されるかが大切。

- ・ 亀岡市における廃棄物の再資源化率は2割程度であるが、鹿児島県大崎町は再資源化率日本一で8割以上となっており、リサイクルによる年間売却益が800万～1,000万円程度である。また、年間売却益を奨学金に充てている。中学生が独居老人の家を訪問してゴミ出しの手伝いをするなど、お金・人の両面で繋がりができており、実感を伴って市民生活とリンクしている。
- ・ プラごみゼロの取組は全国で放送されているが、市民がやってよかったと実感を持ってもらえることが必要であり、若い世代や女性に還元できることが大切である。

#### 会長

- ・ 引き続き、おねがいしたい。では（4）について説明をお願いします。

#### （4）令和2年度 総合計画審議会の取組予定について

#### 事務局

- ・ 資料に基づき、説明。

#### 会長

- ・ 今の件について、質問、意見はないか。
- ・ 議事を終わる。進行を事務局にお返しする。

#### 事務局

- ・ 現委員の任期は令和2年5月14日までであり、全体会議は最後の会議となる。進行管理部会委員は最後の会議となるが、策定部会委員については引き続き任期満了までお世話になる。
- ・ 令和元年度第2回亀岡市総合計画審議会を閉会する。

以上